



“きたスマイルアンケート”をまとめました！

新型コロナウイルス感染症はまだまだ心配な状況が続いておりますが、“それでも子どもたちの育ちのためにできる連携”を探るため、アンケートを実施させていただきました。御協力いただいた皆様、ありがとうございました。紙面の都合上、全ては掲載できませんでしたが、是非、今後の各校・園の取組、そして地域での連携の参考にしていただければと思います。

Q1 幼児教育施設の先生にお聞きします

「幼児期の終わり頃」を迎える年長児の生活で大切にしていることはどのようなことですか？

各園の回答について、**児童期の学びへのつながり**が見えやすいよう、三つの資質・能力（**知識及び技能の基礎**、**思考力・判断力・表現力等の基礎**、**学びに向かう力・人間性等**）の側面から分類してみました。

* 同じような意味のものはまとめております。

知識及び技能の基礎

- ・ 基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・ 自分の考えや気持ち、困っていることなどを言葉で伝える。
- ・ 自分のことは自分でしようとする。
- ・ 挨拶ができる。 ・ 体力づくり。
- ・ 時間（時計）を意識して行動する。
- ・ 人の話を集中して聞く。
- ・ 自分の名前や簡単な平仮名が書けること。
- ・ 交通ルールを理解。 ・ 物を大切に扱う。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- ・ 見通しをもち、自分で考えて行動する。
- ・ 遊びを通して考えたり試したり工夫したりする楽しさを味わう。
（大人がすぐに答えを出さず適度なヒントを提示。）
- ・ 物事に主体的（自分から）に取り組む。
- ・ 言葉で思いを伝え、相手の話も聞こうとする。
- ・ やってよいことといけないことの判断。
- ・ 状況を感じて行動する。

学びに向かう力・人間性等

- ・ 「やってみよう」という意欲と「やれる」という自信。
- ・ 友達と目的を共有して、考えたり話し合ったり折り合いをつけたりしながら、やり遂げる達成感を味わうこと。
- ・ 相手の気持ちを考えたり想像したりする。 ・ いろいろなことに興味・関心をもつ。
- ・ いろいろなルールを知ったり自分たちで決めたりして生活する。
- ・ 集団の中で一人一人の持ち味を発揮し、互いのよさを認め合う生活。
- ・ 失敗しても何度も挑戦しようとする気持ちを育てること。
- ・ 係活動など協力して取り組む経験。

* 三つの資質・能力は完全に分けきれものではなく相互に関連し合っています。その他にも大切にしていることがたくさん挙げられましたので次のページにまとめました。

その他

- ・同じ就学先の子どもたちとの関わりの機会をもつ。
- ・自分のことを「ぼく」「わたし」という。
- ・身体的なことや相手が傷つくことを言わない。
- ・就学への期待感、ワクワク感、興味・関心を高める。
- ・集中して活動に取り組む時間を45分はもてるようにする。
- ・甘えたいときには甘えられるように。
- ・生活の流れに応じ気持ちの切り替えができる。
- ・小学校生活を意識した入園時からのカリキュラム編成。

Q2 小学校の先生にお聞きします①

スタートカリキュラムを進めるにあたり、留意していることや工夫していることはありますか？

各校の取組をいくつかのカテゴリーに分類しました。

■教師間の連携

- ・新1年生の情報・実態を学年で把握し、学年・関わる教職員で情報を共有する。
- ・打合せを綿密に行う。
- ・学年として共通実践していく。
- ・学年学級だけでなく、特別支援コーディネーター等を含めたチームでの対応。



■時間割の工夫

- ・子どもの興味や関心がつながるような時間割の設定。
- ・15分程度のモジュールで学習を構成。
- ・ゆとりをもった活動時間の設定(実態に合わせた授業時間や給食時間の設定)。

■活動内容の工夫

- ・遊びを中心に、頭も心も体も使って総合的に学ぶ。
- ・遊びと学びの段階的移行。
- ・具体的な活動を通した「学びのきほん」(基本的な学び方)の定着。
- ・子どもの主体性を大切に弾力的な構成。
- ・合科・関連的な指導を含めていく。
- ・1時間いっぱい座学としないようにする。
- ・子どもが徐々に学習に慣れるように、最初は生活科の学習を主にして進める。
- ・できるだけ年度によって取り組む内容が変わらないようにすることで、その年の児童の特徴を捉える。ただし、個々の子どもにとって、過度な負荷がかからないよう、微調整しながらカリキュラムを実施する。
- ・今までの1年生の入学後の学校生活を見直し、付けさせたい力と、いつまでに身に付けさせるかを明確にする。

■子どもへの関わり

- ・小学校では、「こんな勉強をするよ」ということを伝え、興味と安心感をもたせる。
- ・幼稚園や保育園で学んできたこともつながっていることを伝え、成長していることを自覚させる。
- ・6年生と交流することにより、憧れの気持ちをもたせる。自分も「お兄さんやお姉さんのようになりたい」という思いをもたせる。(自立心をもたせる。)
- ・学習よりも、子どもの思いに寄り添った学びができるようにする。
- ・子どもの実態をできるだけ捉える。
- ・集団で学ぶことを大切にする。
- ・周りの友達や状況を見ながら、新しい活動(学習)、新しいルールに取り組むようにする。
- ・新しい活動、ルールにも安心して取り組み、遅れる児童がいないように活動時間を保証し一緒に取り組むことで、学級で活動するという協同性を育てていく。
- ・繰り返し行う学習の中で成功体験を増やし、自信をもたせる。

■ ICT 活用

- ・読み聞かせ動画等の活用。

■ 保護者との連携

- ・保護者との連絡をこまめにとる。
- ・保護者も児童も1日の流れや動きを具体的にイメージできるよう、詳細な時間割を事前に組んで、入学説明会で知らせる。
- ・生活指導の具体例をスタートカリキュラムに明示し、保護者へ情報提供する。

■ 幼児教育との連携

- ・幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、学びやすい環境づくりをしたりすることで、児童が安心して学校生活をスタートできるように配慮する。
- ・自分の力で取り組む姿を大切にする。幼児期に育まれてきている粘り強さ、やり抜く力など、自立心を発揮し、主体的な姿を目指す。
- ・児童の気持ちに余裕がもてるように時間をかけてゆっくりと指導する。
- ・入学前までの姿を園から聞き、すでにできていることと、今後身に付けさせていくことをはっきりさせる。
- ・配慮の必要な子の情報を集めるために出身園との連携を図る。

Q2 小学校の先生にお聞きします②

今年の1年生の様子はどうですか？

*地域ごと(小中パートナー校地区)にまとめました。

<北辰中学校区>

- ・全体的に落ち着いている。
- ・何事にも興味・関心をもって取り組んでいる。
- ・元気な挨拶が微笑ましい。
- ・一部母子分離不安や行き渋りが見られた。

<新琴似中学校区>

- ・全体的に落ち着いている。
- ・全般的に素直な子どもたちで元気に過ごしている。
- ・落ち着かない様子もあり、担任外を中心にサポートに入りながら関わった。

<篠路中学校区>

- ・全員が元気に登校している。
- ・幼さが多くみられる子と、大人びた言動をする子の差が大きい傾向にある。
- ・友達同士で助け合う様子が多く見られるが、やや素直さに欠ける子どもがおり、担任の言葉をきちんと受け止めて行動できない場合がある。
- ・幼児教育センター等と連携し、就学までに特別支援学級と通常級との選択が適切になされ、それぞれ児童に合った環境での教育活動が進められている。

<新琴似北中学校区>

- ・登校渋りもなく長欠もない。
- ・段階的に学校生活のルールを指導しているところ。
- ・日々のコロナ対応も比較的定着している。
- ・比較的落ち着いて学校生活を送っている。
- ・困りのある子どもについては、保護者とこまめに連絡をとりあったり、学びのサポーターにも協力してもらったりしながら、集団生活ができるようフォローしている。

<新川中学校区>

- ・落ちついて学習に取り組んでいる。

<光陽中学校区>

- ・子どもたちはコロナ禍で制限される場面も多いが、全体的に落ち着いて行動することができている。

<北陽中学校区>

- ・元気いっぱいの子、取りかかりが遅い子、周囲のことが気になってしまう子、自分の思いを強くもっている子などそれぞれの個性が発揮されている様子もみられるが、ほとんどの子が素早く、気持ちよく行動できている。
- ・どの子も学習に前向きに取り組んでおり、学校の生活に慣れてきている。コロナ禍のため、6年生との関りが少ないが、これから感染拡大の状況を見て、交流の機会を設けていきたい。(休み時間など、部分的には交流している。)
- ・徐々に小学校の生活にも慣れてきて、落ち着いてきている。配慮が必要な児童がいる学級には、学びのサポーターや担任外が補助に入っている。

<太平中学校区>

- ・比較的落ち着いて学校生活を送っている。
- ・困りのある子どもについては、保護者とこまめに連絡をとりあったり、学びのサポーターにも協力してもらったりしながら、集団生活ができるようフォローしている。
- ・学びの意欲が高く、穏やかな子どもが多い。
- ・落ち着いて学校生活を送っている。GIGAスクール構想に係る一人一台の端末を1年生も毎日活用して授業に取り組んでいる。

<新川西中学校区>

- ・毎朝、元気よい挨拶で教室に入ってくる。
- ・学校探検、アサガオのお世話など新しい発見をするたびに目を輝かせている。
- ・休み時間は元気にグラウンドを駆け回っている。
- ・児童の様子は、例年と大きく変わることはないが、保護者が学校でのトラブルにとても過敏になっていると感じる。

<篠路西中学校区>

- ・個人差が激しい。発達に課題のある子がいて、指導に時間を要している。
- ・全体的には確実に成長してきている。
- ・引継ぎの時点では配慮を必要とする児童が多く感じられたが、昨年度に比べると落ち着いて学習を進める子が多い。教室を飛び出す子や別室で個別指導を必要とする子はいない。

<屯田中央中学校区>

- ・昨年に比べ休校がない分ゆっくりと生活できている。
- ・全体的に学習習慣を身に付けて、落ち着いて生活している。

<上篠路中学校区>

- ・落ち着いたスタートが切れ、順調に成長している。

<あいの里東中学校区>

- ・素直で、まじめな子が多く、比較的落ち着いている。
- ・学習については個人差が大きく、個別に対応が必要な子もいる。学びのサポーターや担任外の先生がかかわりながら、活動を進めている。
- ・入学当初より感染症対策を行っているので、友達との距離感をうまくとりながら生活している。

<屯田北中学校区>

- ・比較的落ち着いている。指導上の困難を感じるような児童はいない。
- ・引継ぎのあった児童や、面談の様子などから、クラス編成時に配慮をするとともに日々学びのサポーターの手助けで、学習を進めている状況。4月から2か月がすぎ、保護者面談の必要性を感じる児童が数名いる。

Q3 幼保小全ての先生にお聞きします

コロナ禍でもできた取組、またはやってみたい幼保小連携のアイデアはありますか？

たくさんのご回答ありがとうございました。ここでは、幼保小連携のアイデアに絞ってご紹介いたします。是非、近隣での幼保小連携の参考にしてください。

★ICTを活用！

幼児教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活の様子動画などを幼児に見せ、入学への期待を高める。 ・ZOOMやビデオレターでの交流 ・オンラインで授業や保育の動画を教師、保育者同士で見合い、連携に必要なことを話し合う。 ・“運動会”などテーマを決めて、取組の過程の動画を基に話し合う。 	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用したメッセージ交換（小学校で楽しみなこと、小学校での取組など、児童、園児時間での交流。 ・ZoomやGoogle Meetなどを使っての交流（次年度を見越して5歳児と1年生、5歳児と5年生など） ・オンライン保育（授業）参観。 ・オンライン研修会。 ・ZOOMを活用した担当者会議の実施。幼稚園や保育園のコロナ対策等を話し合う。
---------------	--	------------	---

★間接的でもできる交流のアイデア！

幼児教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生への質問など手紙や絵のやり取り ・小学校周辺を散歩して話題にしたり、グラウンドで遊ばせてもらったりする。 ・小学校の長期休業中に園児が学校探検をさせてもらう。 ・運動会の練習を距離をとって見せてもらえると小学校の様子が少し分かる。 ・保護者向けの情報を同じ地域の小学校から提供してもらう。 ・就学に向けて育ってほしいことの情報もらう。 ・電話の活用 	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生が園児に学校を紹介する絵手紙などを送る。
---------------	--	------------	--



★直接こんな交流がしたい！

幼児教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を見ながら互いに訪問。 ・小学生の保育体験、幼児の授業体験。 ・一緒に遠足（公園で会う）。 ・幼保小連携推進協議会でも、小グループにすることで実施可能では。 ・小学校の先生が園に来て話をする。 ・教師、保育者同士で、接続期に必要なことを話し合う機会をもつ。 ・学校行事の一部に参加したり、給食体験をしたりする。 ・近隣の公園情報、小学校のグラウンドをお借りすることなどについて情報交換。 	小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・幼児の理解を深め、スムーズな接続につなげるためにも、日常の交流を中心に進めていけるとよい。 ・キャリア教育として園の訪問。 ・低学年による遊び企画への招待。 ・一日入学で来た園児たちに1年生が学校のことを伝える。生活科で作ったおもちゃで園児に遊んでもらう。 ・教師同士がお互いの施設を見学。 ・参観日を幼保小の交流日とし、実際に活動している児童・幼児の姿を見合う。 ・研究会等に、近隣の園をお誘いする。
---------------	---	------------	---

★コロナ禍の中、昨年度は実際にこんな連携をしました！

- ・就学が近い時期に、絵や写真、幼児から小学生への質問などの紙面を通して交流した。
- ・園内に“小学校質問BOX”を設置し、卒園児や小学校教諭経験者に協力してもらい返事を作った。
- ・学校の様子を伝えるDVDを作成し、それを各幼稚園・保育園に配付して見てもらった。
- ・近隣の保育園と5年生が交流を行った。小学校へ進学するにあたっての不安や心配なことを手紙でいただき、ビデオレターという形で5年生がそれに答えるという交流。
- ・小学校児童が園児に折り紙やお手紙のプレゼントをした。
- ・近隣のこども園の園児15名と教諭2名が予防に気を付けながら15分ほど校内の様子を見に来た。
- ・学校見学を実施できなかったため、近隣の保育園に校長が招かれ、園児に小学校についてのお話をしに行った。
- ・個別配慮が必要なお子さんは、小学校の先生に直接園生活の様子を見に来ていただいた。
- ・引継ぎは重要。電話での引継ぎはよかった。
- ・電話だけでなく、要録を持参していただいた時間を有効に使えた。

★こんなご意見もありました（小学校）

- ・幼保のカリキュラムについて学ぶ機会や小学校のカリキュラムについて学んでもらう機会があると、小学校へ送り出す側、受け入れる側双方が同じベクトルで子どもたちを育てることができると思います。

さて、

第2回幼保小連携推進協議会のテーマは…

「幼保小の接続を考える」です。このアンケートの内容にも関わる、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体や「スタートカリキュラム」について学ぶ機会になると思います。是非ご参加ください。

講師：藤女子大学 教授 大室道夫 氏

日時：11月4日（木） 15:15～16:30

場所：篠路コミュニティーセンター

詳細は改めてご案内いたします。
新型コロナウイルス感染症の状況によっては、ZOOMによるオンライン開催も考えられますのでご了承ください。



編集後記

今回の“きたスマイル”では、第1回幼保小連携推進協議会の代替の取組として、アンケートのまとめをお届けしました。この中で、昨年度コロナ禍においても近隣の幼保小で工夫して連携に取り組んでいた地域があることも分かり、大変参考になりました。北区は園、学校数が多く一堂に会することに難しさもありますが、このような事例を共有し、近隣での連携にお役立ていただけましたらうれしく思います。

（白楊幼稚園 松本）